

第8回 日英共同ワークショップ 議事要旨

日時：平成 18 年 10 月 9 日～10 月 11 日

場所：イギリス（ダーティントン）

出席者

英国側：チャールズ タイラー（エクセター大学）

ピーター マティエセン（生態・水文学センター）他 13 名

英国環境・食糧・農村地域省：マイケル ロバーツ 他 1 名

日本側：井口泰泉（自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター）

濱口哲（新潟大学） 田中宏明（京都大学）他 7 名

環境省：青木龍哉（環境省環境保健部環境安全課長）

事務局：戸笈修、山藤憲明（東和科学（株））

オブザーバー：川嶋 之雄（日本エヌ・ユー・エス（株））

敬称略

議事要旨

1. 本事業の背景と取組みの趣旨について、日本側（環境省）、英国側（DEFRA）より説明がなされた。
2. スーパーバイザー（日本側：井口泰泉、英国側：チャールズ タイラー）より、これまでの研究成果および今年度の取組み概要について説明がなされた。
3. 各コアプロジェクトについて、日英研究代表者より、研究成果および今後の研究計画について報告がなされ、質疑応答が行われた。
4. 招待講演者による講演と、質疑応答が行われた。
日本側：濱口哲（新潟大学）「Genetic and Epigenetic Sex Reversal in Medaka, *Oryzias latipes*, with Special Reference to the Impact of Endocrine Disruptors on Wild Life」
英国側：ルー ジレット（フロリダ大学）「Hormone Disruption and the Developing Reproductive System」
ピーター マティエセン（生態・水文学センター）「EDCAT - A UK-Based Research Programme to Investigate Endocrine Disruption in a CATchment」
5. 今後の日英共同研究の取組み方針として、日英両国が協力し、化学物質の健康・生態影響に留意しつつ研究を推進し、OECD の試験法開発に貢献していくことを確認した。